

Jミルクが2022年9月30日に公表した「需給見通し(※2022年7月迄実績)」の予測値とその後の実績をグラフ化しています。

「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。

発行：一般社団法人Jミルク生産流通グループ

「年末年始の需給緩和に向けて、実効性のある取り組みと万全の準備を～」

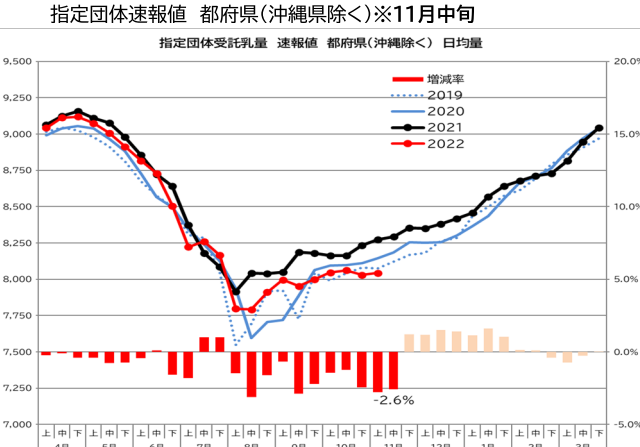
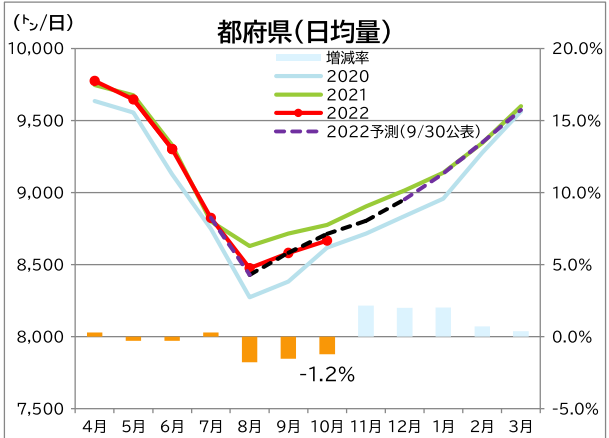
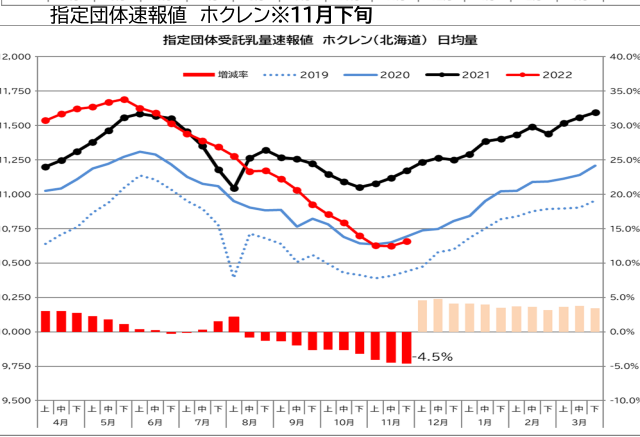
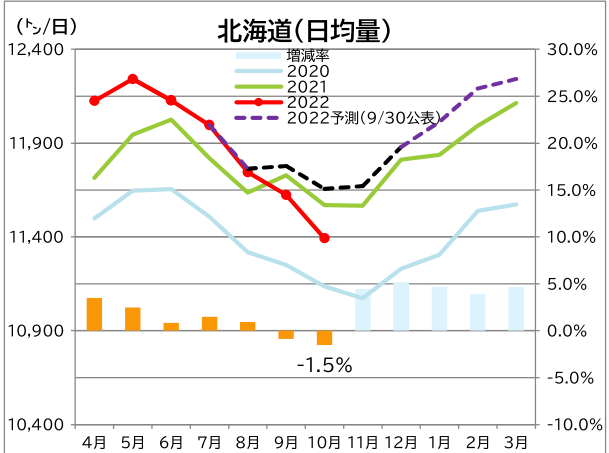
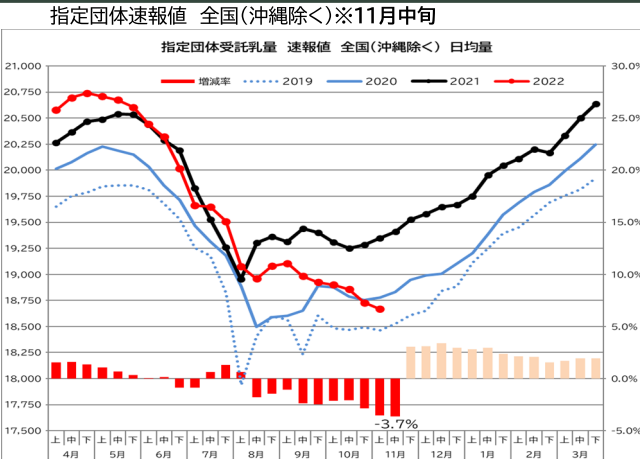
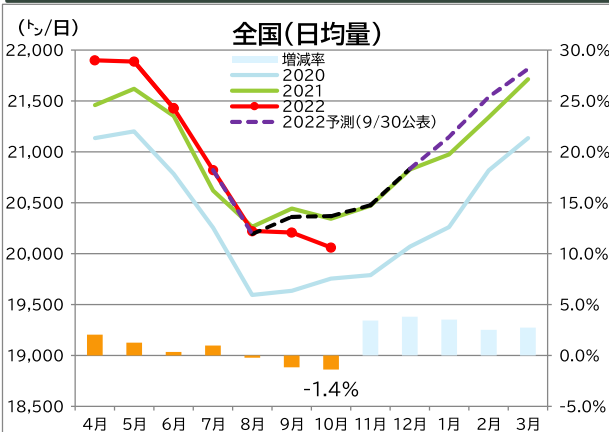
- ・10月の生乳需給について、飲用等向は成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳等の落ち込みから前年をやや下回っているものの、一方で生乳生産量は都府県、北海道ともに前年を下回っており、全国では前年を1.4%下回る今年度で最大の減少率となった。結果、乳製品向は生乳生産量の減少分が影響し、前年を下回ることとなった。なお、直近(11月中旬)の全国指定団体受託乳量が今年度最大減少率を更新しており、11月月間の生産量も前年を下回ると見通される。
- ・乳製品向の仕向量減少から脱脂粉乳・バターの生産量も減少しており、脱脂粉乳は全国協調の在庫解消対策と北海道(ホクレン)の国産脱脂粉乳への置換対策の効果による出回りの増加も重なったことで、在庫量は前月に比べ減少し、42ヶ月振りに前年を下回った。バターについては、業務用需要が引き続き回復傾向にあるため推定出回りは前年を上回っており、輸入売渡し分を考慮しても在庫量は前月よりも減少した。両品目ともに在庫量は減少傾向にあるものの、依然として高い水準が継続しているため在庫対策を含めた需要確保対策による在庫消化が不可欠となっている。
- ・11月の牛乳販売動向(インテージSRI+実績：前年比97.3%、Jミルク予測(牛乳業務用以外)：96.1%)については、農水省の牛乳乳製品統計が高めとなる傾向にあることのほか、これまでのSRI+実績をみると乳価引き上げに伴う製品価格改定による消費への影響はJミルク予測よりも小さいとみられることから予測値水準並み、または上回って推移している可能性が考えられる。
- ・また、直近(11.28週)の牛乳類販売動向は、牛乳よりも改定幅が小さい加工乳、乳飲料にシフトしている傾向がみられるが、牛乳についても想定以上の減少には至っておらず、牛乳類全体では前年比▲1.6%に留まっている。なお、季節的な気温の低下に伴い牛乳類の消費が減少する傾向にあるが、業態別(月間)では10月と比較しドラッグチェーンの販売個数減少率がSMIに比べて小さく、前年比でも大きく上回っていることから、価格改定幅が小さく、比較的安全な製品にシフトしている可能性がある。これから価格改定を予定している小売・流通もあることから、引き続き動向を注視する必要がある。
- ・年末年始を始めとする学乳休止期の需給緩和に向けて、引き続き「牛乳でスマイルプロジェクト」を通じた業界内外を巻き込んだ消費拡大、生産抑制の着実な取り組みとともに、最大限の生乳処理体制を図るべく、万全の準備を進めることが重要となる。

【生乳生産量】※増減率は、日均量で算出。

(1)10月の生乳生産量は、全国621.9千ト(前年同月比98.6%)、北海道353.2千ト(同98.5%)、都府県268.7千ト(同98.8%)。

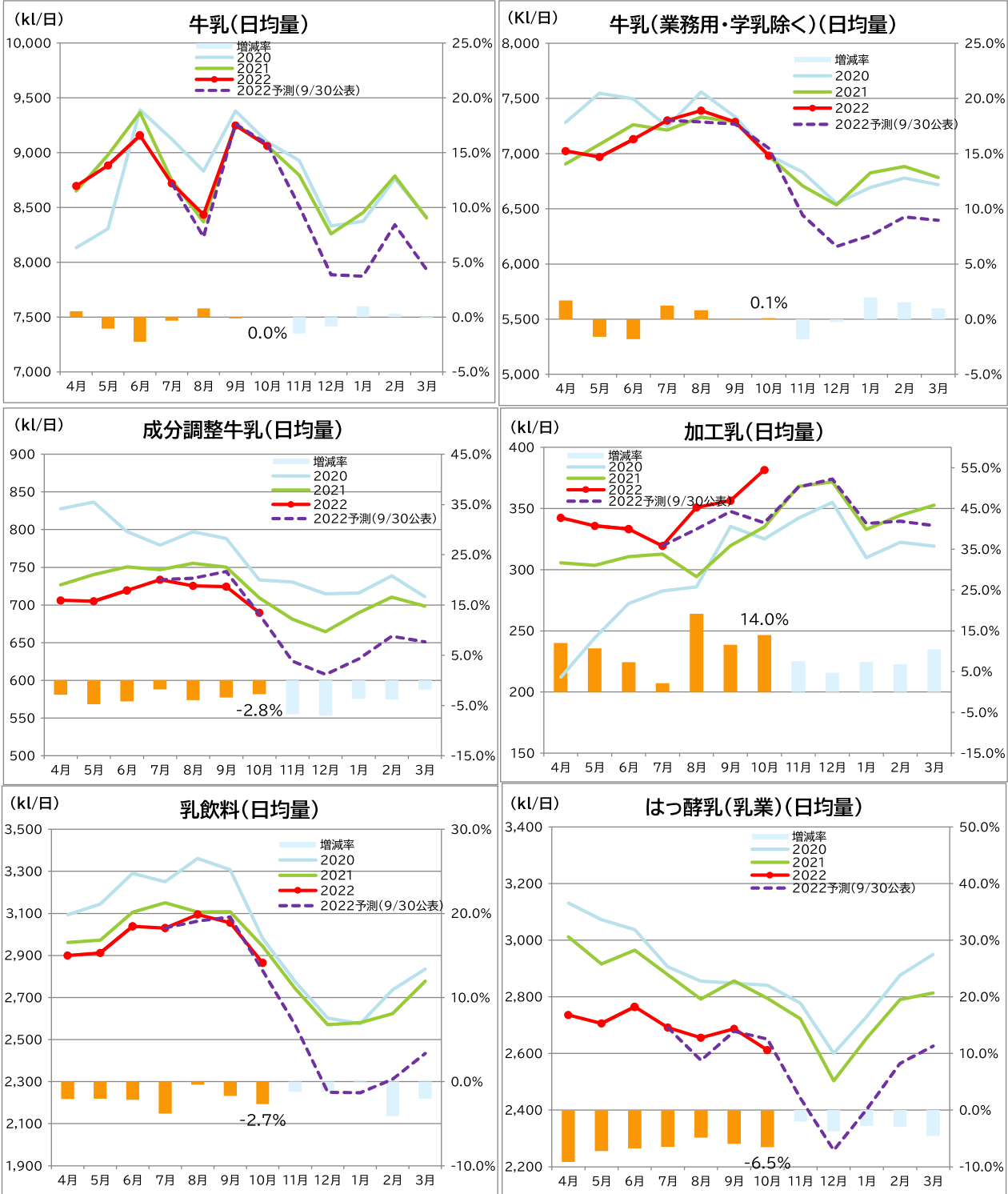
(2)Jミルク予測値(全国631.4千ト、北海道361.3千ト、都府県270.1千ト)との比較は、北海道、都府県ともに下振れとなった結果、全国でも下振れとなった。

(3)直近の指定団体速報値は11月中旬で全国が同96.3%、都府県(沖縄除く)が同97.4%、北海道は11月下旬で95.5%となっている。



【牛乳等生産量】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)10月の牛乳等生産量は、牛乳280.9千kl(前年同月比100.0%)、成分調整牛乳21.4千kl(同97.2%)、加工乳11.8千kl(同114.0%)、乳飲料88.8千kl(同97.3%)となり、牛乳類合計では402.9千kl(同99.6%)となった。
 (2)「牛乳」のうち、「業務用以外」は、同100.1%、「業務用」は同103.1%、「学乳」は97.1%。
 (3)はっ酵乳(乳業)は81.0千kl(同93.5%)と前年を下回って推移している。
 また、非乳業実績(9月)については、同104.5%と前年を上回った。

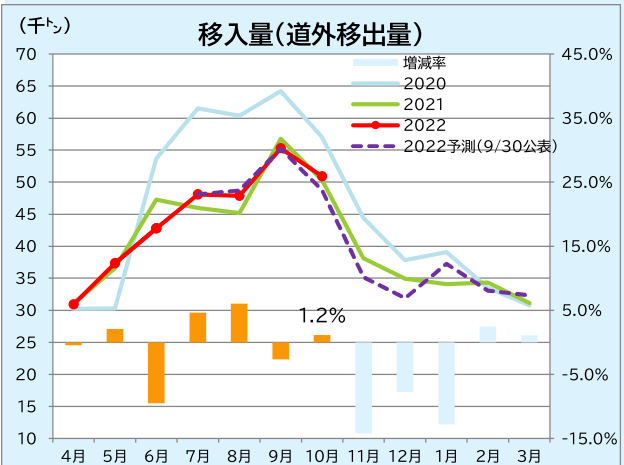
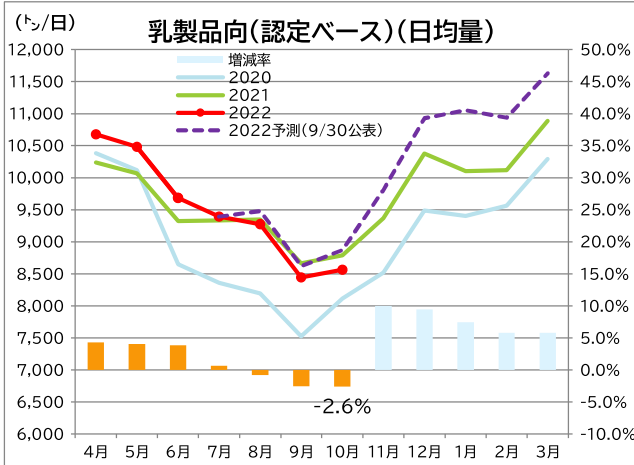
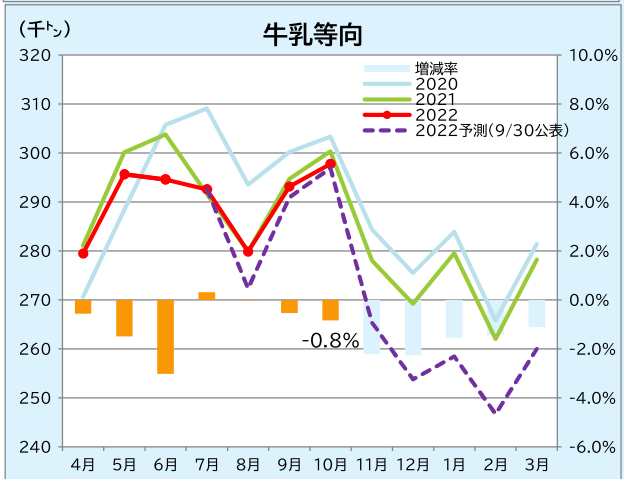
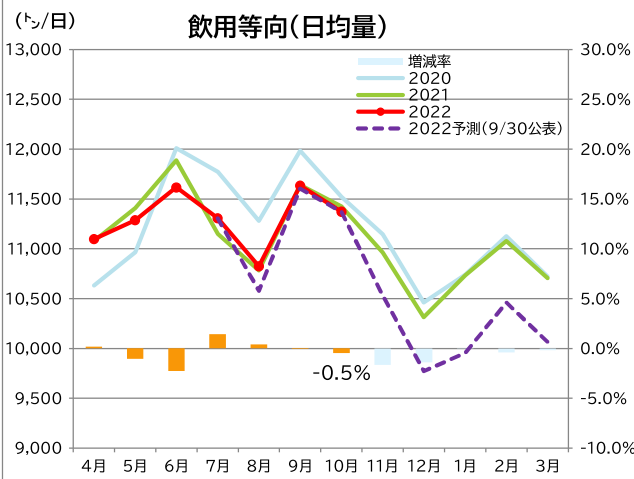
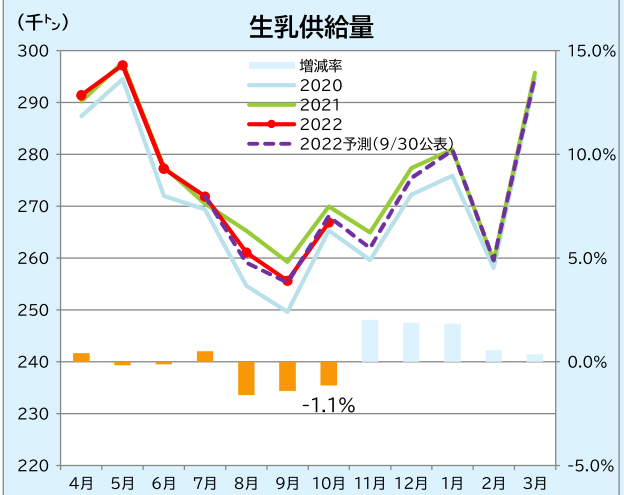
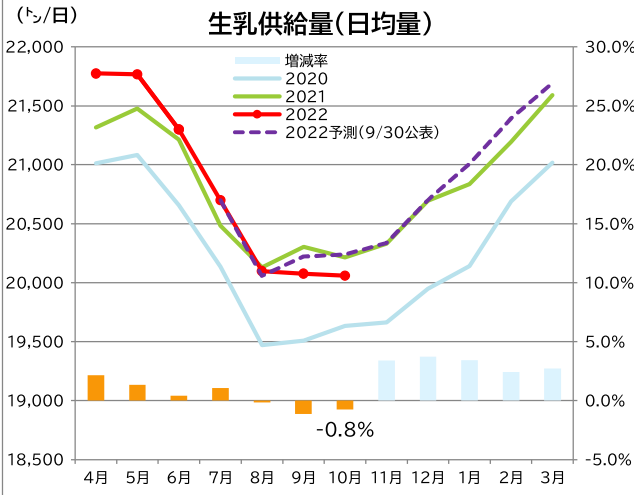


【用途別処理量(全国)】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)10月の生乳供給量は621.9千ト(前年同月比99.2%)、飲用等向352.6千ト(同99.5%)、乳製品向(認定ベース)265.4千ト(同97.4%)。
 (2)飲用等向はやや前年を下回ったが、生乳供給量の減少幅の方が大きく、乳製品向は前年を下回った。
 (3)予測値との比較では、生乳供給量(予測値:627.4千ト)は下振れ、飲用等向(予測値:352.4千ト)は予測値並み、結果乳製品向(予測値:274.9千ト)は下振れとなった。

【都府県の生乳需給】

(1)10月は、生乳供給量266.9千ト(前年同月比98.9%)、牛乳等向297.8千ト(同99.2%)。
 (2)北海道からの移入量について、50.9千ト(同101.2%)と前年を上回った。
 (3)予測値との比較では、生乳供給量(予測値:268.0千ト)はやや下振れ、牛乳等向(予測値:296.9千ト)はやや上振れ、北海道からの移入量は(予測値:48.7千ト)はやや上振れとなった。



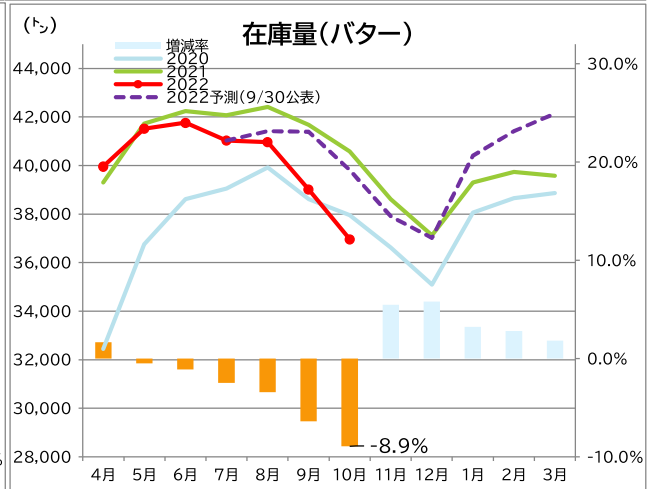
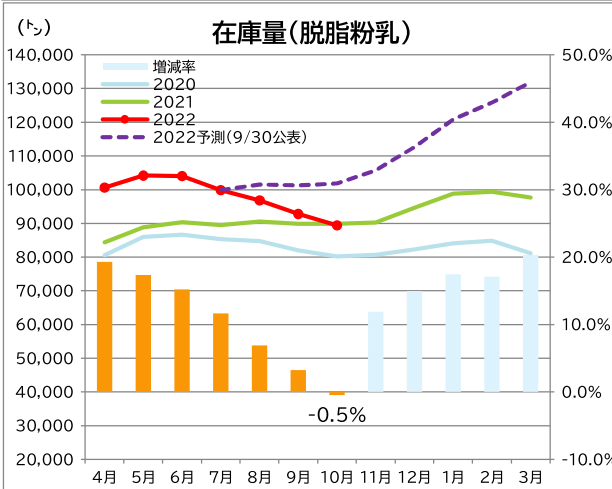
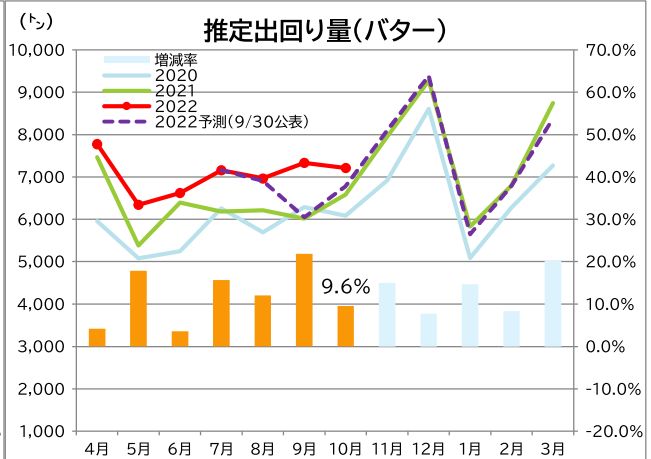
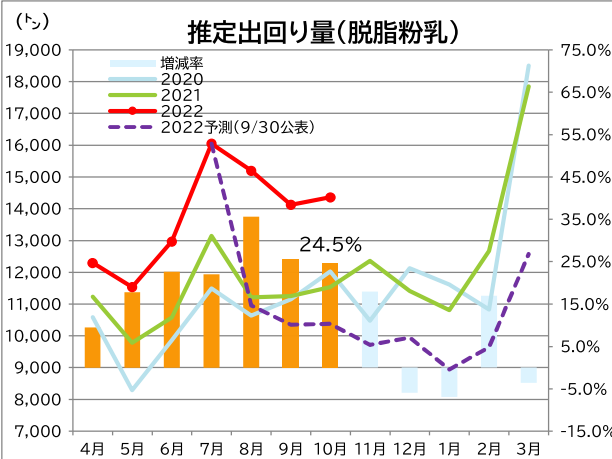
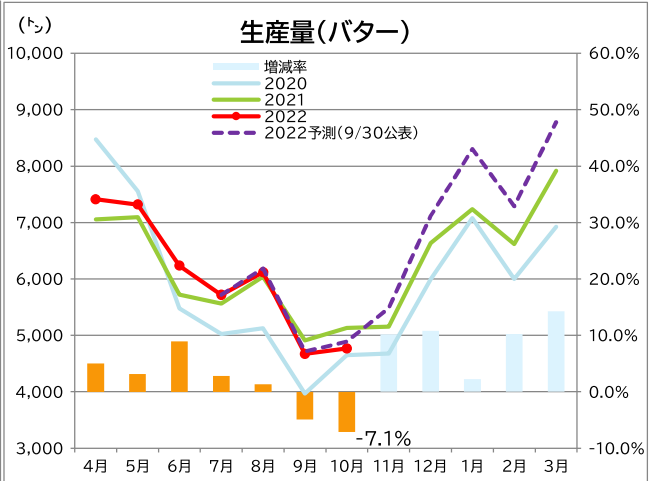
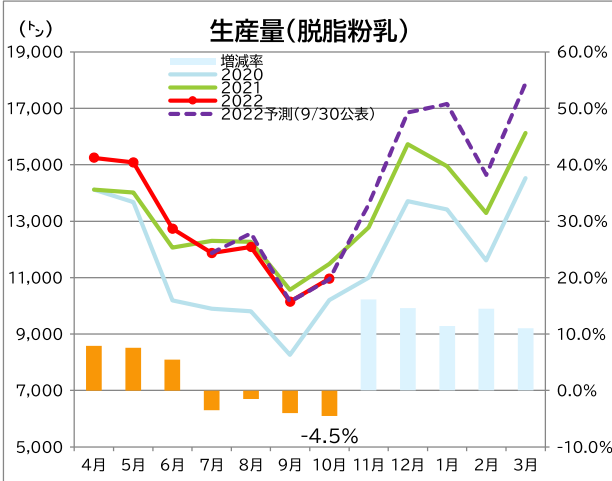
【脱脂粉乳・バター需給】

(1)脱脂粉乳について、10月の生産量は11.0千トン(前年同月比92.9%)、推定出回り量は14.4千トン(同124.5%)。結果、在庫量は89.4千トン(同99.5%)。生産量よりも出回り量が上回ったことから、在庫は前月よりも減少した。国産脱脂粉乳への置換が進められており、在庫量は5か月連続して減少し、3年6ヶ月ぶりに前年を下回った。

※推定出回り量には全国協調の在庫対策と北海道(ホクレン)の独自対策による国産脱脂粉乳への置換分を含む。

(2)バターについて、10月の生産量は4.8千トン(同95.1%)、推定出回り量は7.2千トン(同109.6%)。結果、在庫量は37.0千トン(同91.1%)。生産量よりも出回り量が上回っており、国家貿易による輸入売渡分を考慮しても、在庫は前月よりも減少した。在庫量は4か月連続して減少している。

※推定出回り量には北海道(ホクレン)の独自対策による国産バターへの置換分を含む。



【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI+】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(1)11月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比97.3%、成分調整牛乳:同95.6%、加工乳:同99.3%、乳飲料:同104.2%。
牛乳類では同98.2%

【参考】2020年度比…牛乳:91.3%、成分調整牛乳:88.1%、加工乳:99.3%、乳飲料:93.0%(牛乳類トータル:91.5%)

・販売単価は、牛乳:204.4円、成分調整牛乳:186.9円、加工乳:199.1円、乳飲料:156.7円。

(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)

・直近(11.28週)の販売個数は、牛乳:前年同期比97.4%、成分調整牛乳:同92.7%、加工乳:同103.7%、乳飲料:同105.9%。
牛乳類トータルでは同98.4%

【参考】2020年度比…牛乳:92.7%、成分調整牛乳:85.7%、加工乳:105.5%、乳飲料:96.4%(牛乳類トータル:93.0%)

【参考】2019年度比(コロナ禍前)…牛乳:97.3%

・販売単価は、牛乳:205.6円、成分調整牛乳:188.2円、加工乳:196.5円、乳飲料:157.1円。

※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表① 牛乳類の月別販売動向(11月は速報値)】

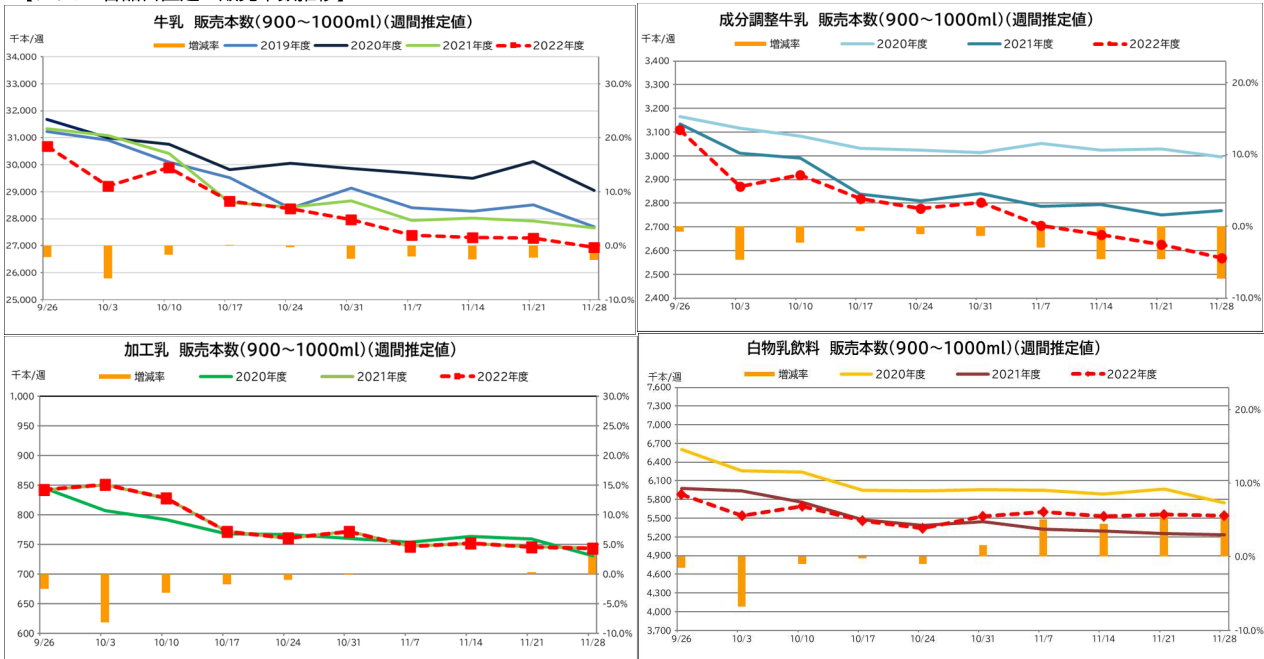
単位:千個、円

品目	区分	2022/6-	2022/7-	2022/8-	2022/9-	2022/10-	2022/11-
トータル	販売個数	170,992	186,323	187,097	175,657	171,212	155,466
	販売個数前年比	94.3	98.7	96.5	97.6	98.2	98.2
	販売単価	182.9	182.9	183.7	183.4	183.1	195.7
牛乳	販売個数	129,838	142,239	143,408	133,609	130,277	117,018
	販売個数前年比	94.1	98.8	97.1	97.7	98.3	97.3
	販売単価	189.9	189.8	190.6	190.4	190.2	204.4
成分調整牛乳	販売個数	12,977	13,756	13,647	13,243	12,796	11,463
	販売個数前年比	96.7	98.8	94.3	97.1	97.9	95.6
	販売単価	173.9	174.1	174.8	174.4	173.7	186.9
加工乳	販売個数	3,545	3,782	3,767	3,598	3,476	3,215
	販売個数前年比	98.5	99.4	95.2	97.9	97.2	99.3
	販売単価	189.5	190.6	190.3	190.5	190.1	199.1
乳飲料	販売個数	24,632	26,545	26,276	25,207	24,664	23,769
	販売個数前年比	93.4	98.0	95.0	97.2	97.9	104.2
	販売単価	149.8	149.6	149.9	150.1	149.7	156.7

【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

品目	区分	10.10-	10.17-	10.24-	10.31-	11.7-	11.14-	11.21-	11.28-
トータル	販売個数	39,317	37,690	37,241	37,066	36,438	36,264	36,230	35,831
	販売個数前年比	98.3	100.0	99.6	98.3	99.0	98.4	98.8	98.4
	販売単価	182.9	183.1	183.3	191.0	196.1	196.8	197.1	196.6
牛乳	販売個数	29,901	28,649	28,373	27,965	27,388	27,315	27,292	26,948
	販売個数前年比	98.3	100.2	99.8	97.5	98.0	97.5	97.8	97.4
	販売単価	190.0	190.2	190.3	199.0	205.0	205.5	205.9	205.6
成分調整牛乳	販売個数	2,921	2,820	2,778	2,803	2,705	2,666	2,625	2,568
	販売個数前年比	97.7	99.4	98.9	98.7	97.0	95.4	95.4	92.7
	販売単価	173.3	174.0	173.9	181.6	187.1	188.3	188.4	188.2
加工乳	販売個数	802	759	754	771	747	752	749	771
	販売個数前年比	96.9	98.4	99.1	100.0	100.0	100.0	100.5	103.7
	販売単価	189.8	189.8	190.9	195.7	199.8	199.7	200.5	196.5
乳飲料	販売個数	5,694	5,462	5,336	5,526	5,598	5,531	5,564	5,544
	販売個数前年比	99.0	99.8	99.0	101.6	105.0	104.4	105.8	105.9
	販売単価	149.5	149.3	149.9	154.3	156.6	157.4	157.6	157.1

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



【ヨーグルト類の販売速報(推定値):インテージSRI+】

(1)直近の週次動向(表③参照)

直近(11/28週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比100%以上、個食タイプ(70~130ml):同90%以上、大容量タイプ(350~500ml):同90%以上。

一昨年比ではドリンクタイプは90%以上、個食タイプ90%以上、大容量90%以上となっている。

(2)販売個数について、前週(11.21週)と比較では、ドリンクタイプは横ばい、大容量、個食タイプは減少した。ドリンクタイプは10.10週より8週連続で前年を上回った。なお、はっ酵乳向乳価の引き上げに伴う製品価格改定は平均で+6~8円程度となっている。

※出典 ㈱インテージSRI+週データ。販売個数については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表④ ヨーグルト類の販売動向】

単位:千個

品目	10.10-	10.17-	10.24-	10.31-	11.7-	11.14-	11.21-	11.28-
ドリンクタイプ	➡	➡	➡	➡	➡	➡	↗	↗
個食タイプ	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘
大容量タイプ	↘	➡	↘	↘	↘	↘	↘	↘

- ↓ : 前年比90%未満
- ↗ : 前年比105%以上110%未満
- ↘ : 前年比90%以上100%未満
- ↗ : 前年比110%以上120%未満
- ➡ : 前年比100%以上105%未満
- ↗ : 前年比120%以上

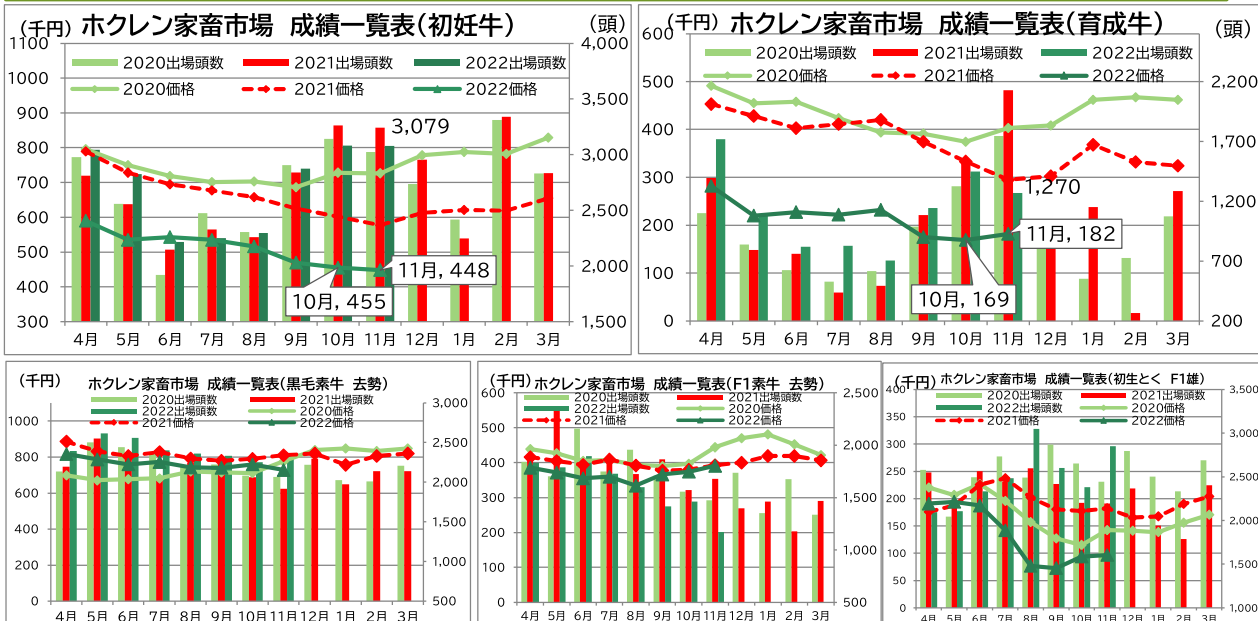
※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

【家畜販売価格動向】

(1)11月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は448千円(前年同期比77.6%)、育成牛価格は182千円(同61.7%)、和牛素牛(去勢)価格は728千円(同89.9%)、F1素牛(去勢)価格は391千円(同99.5%)、F1初生(雄)価格は97千円(同53.2%)。初妊牛は3ヶ月連続で50万円を下回り、F1初生(雄)は4ヶ月連続で10万円を下回った。

(2)出場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同94.9%、育成牛:同59.7%、和牛素牛(去勢):同122.3%、F1素牛(去勢):同69.8%、F1初生(雄):同130.0%。

※ホクレン家畜市場集計表 速報値(<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)

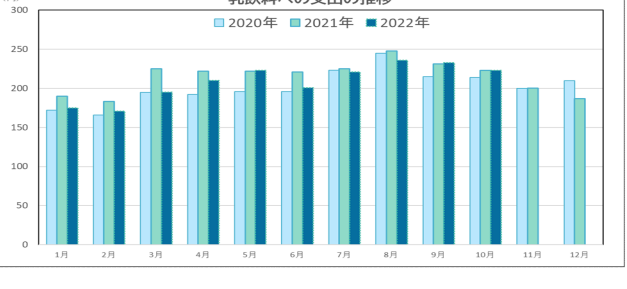
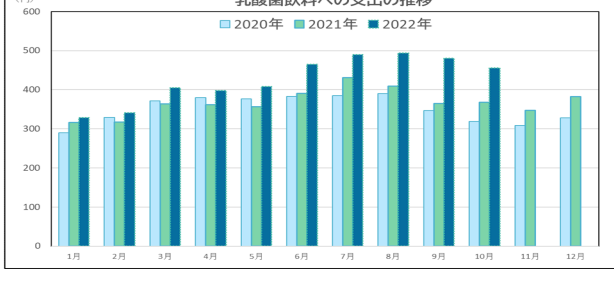
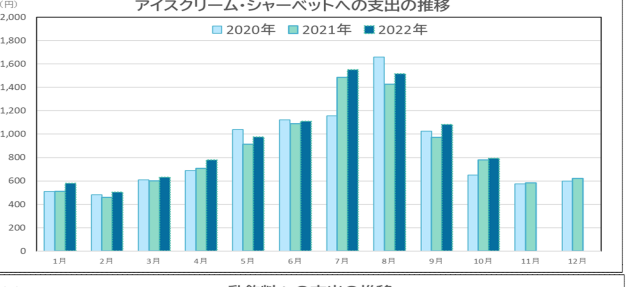
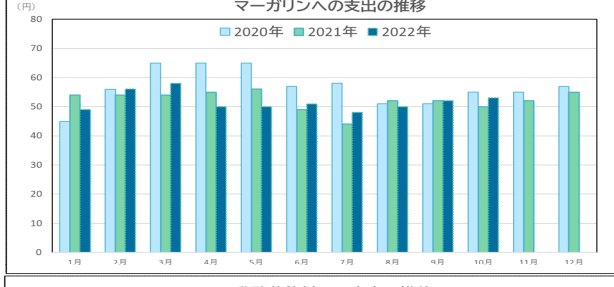
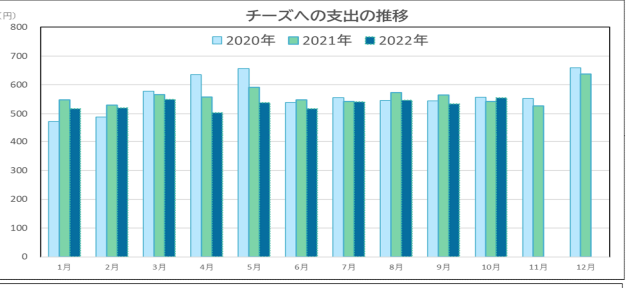
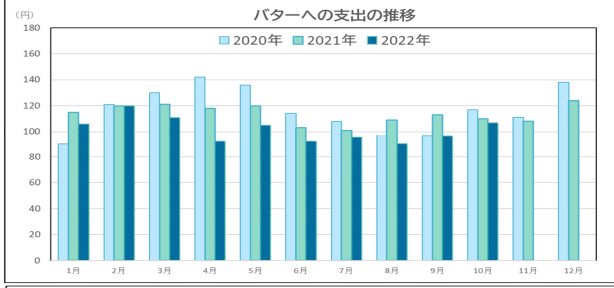
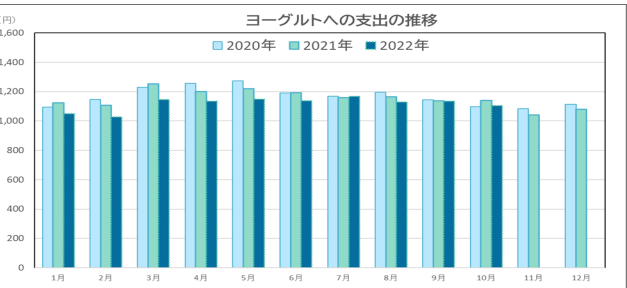
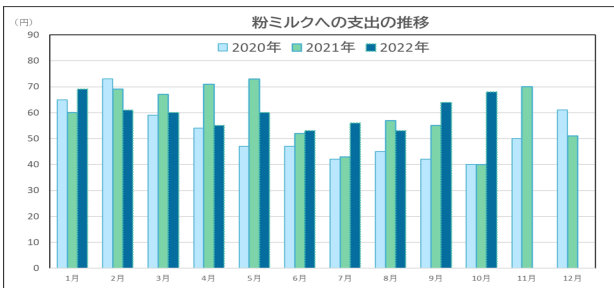
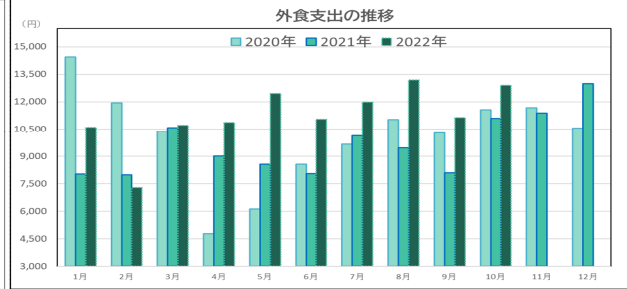
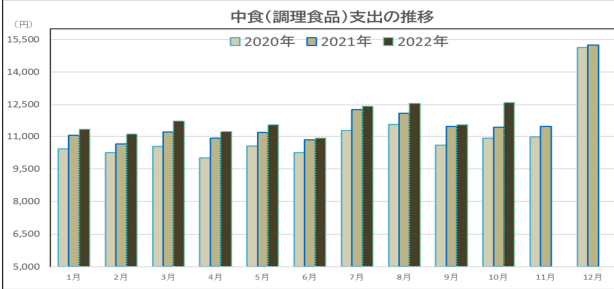
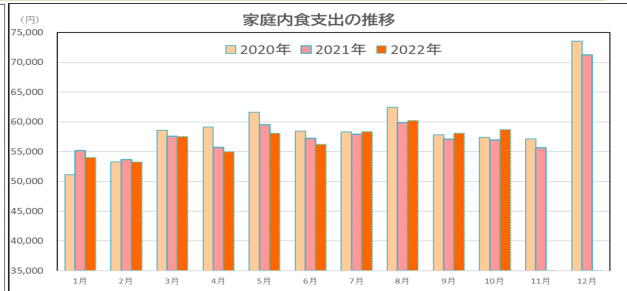
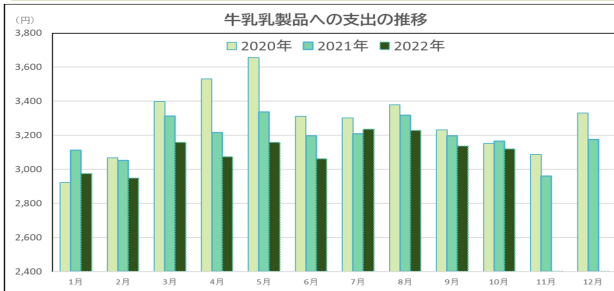


【家計支出の動向】

(1)10月の支出額について、相次ぐ物価高、値上げ等が影響し外食116.2%、中食109.9%、内食102.9%と前年を上回り、食料全体への支出額は105.8%となった。

(2)一方で牛乳乳製品の支出額は、3ヶ月連続で前年を下回った。(牛乳乳製品全体前年比:98.6%、(うち牛乳96.1%、乳製品100.3%))

※総務省家計調査（家庭内食は、食料-調理食品-外食で独自に算出）

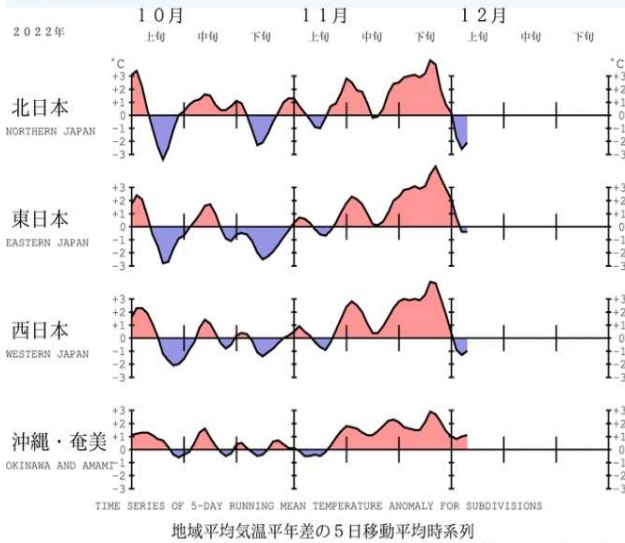


【気象庁HPより全国1ヶ月予報(12/03-01/02)抜粋】

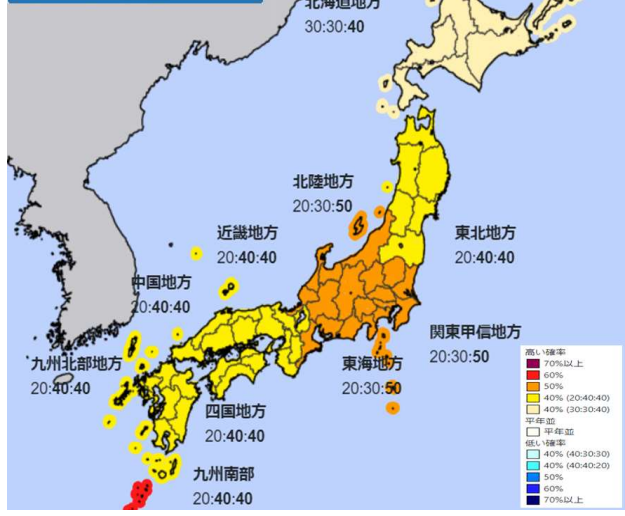
北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。東・西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。平均気温は、東日本で高い確率50%、西日本で平年並または高い確率ともに40%、沖縄・奄美で高い確率60%です。

※出典:気象庁

前3か月間の気温経過



2022年12月01日14時30分発表
12/03-01/02の気温

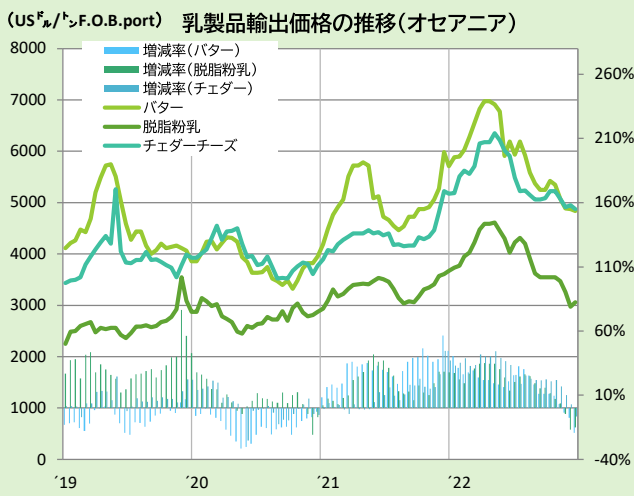
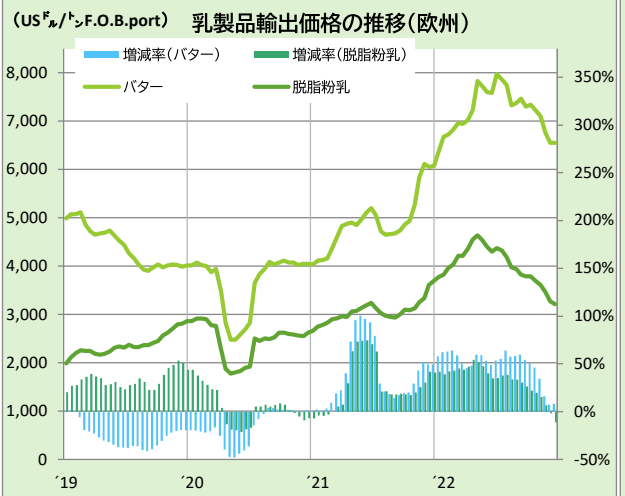


【乳製品輸出価格の動向】

(1)直近の乳製品国際相場について(11月下旬)

- ・欧州:脱脂粉乳3,200ドル/ト、バター6,550ドル/ト中心
- ・オセアニア:脱脂粉乳3,050ドル/ト、バター4,850ドル/ト、チェダーチーズは4,900ドル/ト中心

※出典:米国農務省(USDA)



※「2022年度生乳需要基盤確保事業 独立行政法人農畜産業振興機構 後援」